



プランオブジェクトの凡例

この章では、Cisco Crosswork Planning Design UI のネットワークプロット内のプランオブジェクトの表現について説明します。ノードや回路などのオブジェクトは、ネットワークの計画と設計を容易にするために視覚的に示されます。







プランオブジェクト	[説明 (Description)]
インターフェイスと回路	インターフェイスと回路 (1 ページ)
[ノード (Nodes)]	[ノード (Nodes)] (3 ページ)
サイト	サイト (4 ページ)
デマンド	デマンド (5 ページ)
LSP	LSP (6 ページ)
	LSP パス (7 ページ)
	LSP の名前付きパス (8 ページ)
	LSP の実際のパス (8 ページ)
	SR LSP パス (8 ページ)

- [インターフェイスと回路, on page 1](#)
- [\[ノード \(Nodes\)\], on page 3](#)
- [サイト, on page 4](#)
- [デマンド, on page 5](#)
- [LSP, on page 6](#)

インターフェイスと回路

この項では、ネットワークプロットでインターフェイスおよび回路がどのように表示されるかについて説明します。







Table 1: インターフェイスと回路の可視化





グラフィック	【説明 (Description)】
	<p>実線は、2つのデバイス間の単一リンクを示します。線の色は、アウトバウンドトラフィックの使用率によって異なります。リンクとトラフィック使用率の色のマッピングの詳細については、「トラフィック使用率の色分け」を参照してください。</p> <p>インターフェイスまたは回路を選択すると、リンクの幅が 2 倍になります ()。</p> <p>2つのデバイス間に複数のリンクがある場合は、点線 (-----) が表示されます。</p>
	<p>回路の白い X の付いた赤い円は、回路が機能不全であることを示します。</p>
	<p>回路の白い下矢印が付いた赤い円は、次のいずれかの理由で回路が動作していないことを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 回路に接続されているノードが機能不全になっています。 • 回路に接続されたノードを含む拠点が機能不全になっています。 • この回路は、一部のポートまたはポート回路の障害が原因で動作要件（使用可能なポートの最小数または最小キャパシティのいずれか最初に超えた方）を満たしていない LAG（ポートチャネル）です。 • 回路を含む、または回路操作に必要な上記オブジェクトのいずれかを含む SRLG が機能不全です。
	<p>回路の白い X の付いた赤い円は、回路が非アクティブであることを示します。</p>
	<p>回路の白い下矢印が付いた灰色の円は、次のいずれかの理由でその回路が動作していないことを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 回路に接続されたノードが非アクティブです。 • 回路に接続されたノードを含む拠点が非アクティブです。 • この回路は、非アクティブな一部のポートまたはポート回路が原因で動作要件（使用可能なポートの最小数または最小キャパシティのいずれか最初に超えた方）を満たしていない LAG です。 • SRLG は非アクティブであり、回路または回路操作に必要な上記のオブジェクトのいずれかを含みます。

【ノード (Nodes)】

この項では、ネットワークプロットでノードが表示される方法で説明します。

Table 2: ノードの可視化

グラフィック	【説明 (Description)】
	画像に示されている青色のアイコンは、ノードを示しています。薄い青色の輪郭線は、ノードが選択されていることを示します。
	次の場合、緑色の枠でノードが囲まれます。 <ul style="list-style-type: none"> シミュレーションされたトラフィックビュー：ノードは、0 より大きいシミュレーションされたトラフィックの送信元または接続先です。 測定されたトラフィックビュー：ノードは、0 より大きい測定されたトラフィックの送信元または接続先です。 LSP 予約ビュー：ノードは、ゼロ以外の帯域幅予約を持つ LSP の送信元または接続先です。
	次の場合、ノードが薄い灰色の枠で囲まれます。 <ul style="list-style-type: none"> シミュレーションされたトラフィックビュー：ノードはシミュレーションされたトラフィックの送信元または接続先ではありません。 測定されたトラフィックビュー：ノードの入力トラフィックと出力トラフィックが0（ゼロ）になっている。 LSP 予約ビュー：ノードは、帯域幅予約が0（ゼロ）の LSP の送信元または接続先です。
	次の場合、ノードが暗い灰色の枠で囲まれます。 <ul style="list-style-type: none"> 測定されたトラフィックビュー：ノードに入力トラフィックまたは出力トラフィックがない。 ワーストケースのトラフィックビュー：ノードには常にグレーの枠が表示されます。 障害影響ビュー：ノードは考慮される障害に含まれません。ノードの障害によって、どの回路でもトラフィック使用率が増加されることはありません。
	障害影響ビューでは、ノードの境界線の色はノードの障害の影響を表します。これは、そのノードに障害が発生した場合に、回路で発生する最大使用率として定義されます。
	ノード上の白い X が付いた赤い円は、ノードに障害が発生したことを示しています。




グラフィック	[説明 (Description)]
	ノード上の白い下矢印が付いた赤い円は、機能不全拠点または機能不全 SRLG に含まれているため、ノードが動作していないことを示しています。
	灰色のノードは、ノードがアクティブでないことを示します。
	ノード上の白い下矢印が付いた灰色の円は、非アクティブな拠点または SRLG に含まれているため、ノードが動作していないことを示しています。
	画像に示されている緑色のアイコンは、選択された 1 つ以上の VPN ノードがノードに存在することを示します。





サイト

拠点使用率の色と記号は、拠点内オブジェクトに基づいています。拠点内オブジェクトには子拠点と子拠点に含まれるオブジェクトが含まれます。

この項では、ネットワークプロットで拠点がどのように表示されるかについて説明します。

Table 3: 拠点の可視化



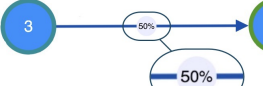
グラフィック	[説明 (Description)]
	青い円は拠点を示します。円内の数字は、拠点に含まれるノード数を示します。 薄い青色の輪郭線は、拠点が選択されていることを示します。
	<ul style="list-style-type: none"> 測定されたトラフィックとシミュレーションされたトラフィックのビュー：境界の色は、拠点内のすべての拠点内インターフェイスの最大のトラフィック使用率の色です。 ワーストケースのトラフィックビュー：境界の色は、シミュレーション分析用に選択されたすべての障害セット上で発生する、その範囲内のインターフェイスで発生する最も高い使用率です。 障害影響ビュー：境界の色は、ノードまたは回路が機能不全になった場合に、ネットワークの他の場所で発生する可能性のある最大使用率レベルです。
	拠点内インターフェイスの使用率がすべてゼロの場合、拠点が灰色の枠で囲まれます。





グラフィック	[説明 (Description)]
	拠点上の白い X マークが付いた赤い円は、拠点で障害が発生していることを示しています。
	<p>拠点上の白い下矢印が付いた赤い円は、 を示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 つ以上の拠点内オブジェクトが機能不全になった。 • 拠点内の 1 つ以上の ノードまたは 回路が機能していません。これらは機能不全に陥った SRLG に含まれているためです。
	<p>灰色の拠点は、次のことを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 拠点が非アクティブになっている。 • 1 つ以上の拠点内オブジェクトが非アクティブである。 • 拠点内の 1 つ以上のノードまたは回路が非アクティブな SRLG に含まれているため、それらが機能していません。
	画像に示されている緑色のアイコンは、選択された 1 つ以上の VPN ノードが拠点内のノードに存在することを示します。

デマンド

この項では、ネットワークプロットでデマンドがどのように表示されるかについて説明します。

Table 4: デマンドの可視化




グラフィック	[説明 (Description)]
	濃い青色の矢印は、インターフェイスまたは回路を介してルーティングされるデマンドを示します。「A」と「Z」は、デマンドの送信元拠点/ノードと接続先拠点/ノードを示します。
	濃い青色の点線矢印は、障害発生時に再ルーティングされたデマンドを示します。
	パーセンテージは、インターフェイスを介した分割デマンド（ECMP からなど）の比率を示します。


グラフィック	【説明 (Description)】
	<p>水色の矢印は、LSP を介してルーティングされるデマンドを示します。</p> <p>青色の点線矢印 (.....➡) は、LSPを介して再ルーティングされたデマンドを示します。</p>
	<p>濃い緑色の矢印は、デマンドの最短の IGP パスを示します。</p> <p>暗い緑色の点線矢印 (.....➡) は、障害中に再ルーティングされたデマンドの短い IGP パスを示します。</p>
	<p>薄い緑色の矢印は、要求の最短の遅延パスを示します。</p> <p>薄緑の点線 (.....➡) は、障害中に再ルーティングされたデマンドの短縮遅延パスを示します。</p>
	<p>濃い茶色の矢印は、デマンドの集約パスを示します。これは、最短IGPパスや最短遅延パスなど、さまざまなタイプのデマンドが同じデマンドルートを共有している場合に表示されます。</p> <p>茶色の点線矢印 (.....➡) は、障害中に再ルーティングされたデマンドの集約パスを示します。</p>

LSP

この項では、ネットワーク プロットでの LSP の表示方法について説明します。

Table 5: LSP 可視化

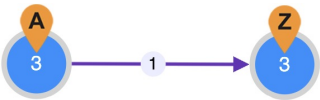
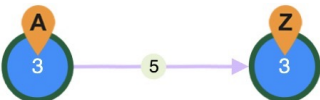
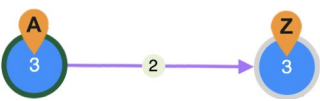
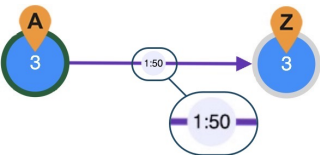
グラフィック	【説明 (Description)】
	<p>紫色の矢印は、LSPトラフィックのルーティング方法を示します。「A」と「Z」は LSP の送信元と接続先の拠点/ノードを示します。</p>
	<p>紫の点線は、[コンバージェンス (Convergence)] モードで障害が発生した場合の LSP トラフィックの再ルーティングを示します。</p>
	<p>薄い緑色の矢印は、LSP の最短遅延パスを示しています。</p> <p>薄緑の点線 (.....➡) は、障害時に再ルーティングされた LSP の短縮遅延パスを示します。</p>
	<p>灰色の矢印は、LSP の最短 TE パスを示します。</p> <p>薄い灰色の点線 (.....➡) は、障害時に再ルーティングされた短縮 TE パスを示します。</p>

グラフィック	[説明 (Description)]
	<p>茶色の矢印は、LSP の集約パスを示します。これは、最短の IGP パス、最短の TE パス、最短の遅延パスなど、異なるタイプの LSP が同じ LSP ルートを共有する場合に表示されます。</p> <p>茶色の点線矢印 (.....➡) は、障害時に再ルーティングされた LSP の集約パスを示します。</p>

LSP パス

この項では、LSPパスがネットワークプロットでどのように表示されるかについて説明します。

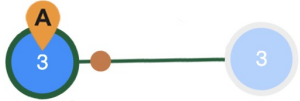


Table 6: LSP パスワードの可視化

グラフィック	[説明 (Description)]
	<p>紫の矢印は、LSPパスがアクティブである（トラフィックを伝送している）ことを示しています。「A」と「Z」はLSPパスの送信元と接続先の拠点/ノードを示します。これは、パスオプションが最小のパス（RSVP LSP の場合）、または優先度が最大のパス（SR LSP の場合）です。円内の番号（ここでは1）は、パスオプションです。</p> <p>紫の点線矢印 (.....➡) は、障害時に再ルーティングされた LSP のプライマリパスを示します。</p>
	<p>淡い紫色の矢印は、スタンバイ LSP パスを示しています。これは、プライマリパスではなく、スタンバイパスとして定義されています。円内の番号（ここでは5）は、パスオプションです。</p> <p>点線矢印 (.....➡) は、障害時に再ルーティングされた LSP のスタンバイパスを示します。</p>
	<p>薄い紫の矢印は、LSP のプライマリパスではない代替 LSP パスを示しています。円内の番号（ここでは2）は、パスオプションです。</p> <p>薄い紫の点線 (.....➡) は、障害時に再ルーティングされた LSP の代替パスを示します。</p>
	<p>円内の値（ここでは 1:50）は、この LSP パスが選択されている LSP で伝送しているロードシェアの割合を特定するのに役立ちます。この例では、1はLSPパスオプションを示し、50はLSP ロードシェアの割合が 50% であることを示しています。</p> <p>この円で表示できる最大文字数は、4 文字です。したがって、4 文字を超える場合は、5 文字以降は表示されません。たとえば、1:50% は 1:50 と表示され、12:50% は 12:5 と表示されます。バッジをクリックすると、完全な値を表示できます。</p>

LSP の名前付きパス

この項では、LSP の名前付きパスがネットワークプロットでどのように表示されるかについて説明します。




Table 7: LSP の名前付きパスの可視化

グラフィック	【説明 (Description)】
	インターフェイス上の茶色の円は、それが名前付きパスホップであることを示します。「A」は、名前付きパスの送信元を示します。
	拠点の茶色の輪郭は、拠点に名前付きパスホップであるノードまたはインターフェイスが含まれていることを示します。
	ノードの黄色の輪郭は、名前付きパスホップを示します。

LSP の実際のパス

この項では、LSP の実際のパスがネットワークプロットでどのように表示されるかについて説明します。




Table 8: LSP の実際のパスの可視化

グラフィック	【説明 (Description)】
	インターフェイス上の濃い黄色のひし形は、インターフェイス上の LSP の実際のパスホップを示します。
	拠点の濃い黄色の輪郭は、拠点内のノードまたはインターフェイス上の実際のパスホップを示します。
	ノード上の濃い黄色の円は、ノード上の実際のパスホップを示します。

SR LSP パス

この項では、SRLSPパスがネットワークプロットでどのように表示されるかについて説明します。

Table 9: SR LSP パスの可視化

グラフィック	[説明 (Description)]
	インターフェイス上の茶色の円は、SR LSP のインターフェイスセグメントを示しています。
	拠点の周りにある茶色の円は、ノードセグメントまたはインターフェイスセグメントを含む拠点を示しています。
	ノードの周りにある黄色の円は、SR LSP のノードセグメントを示しています。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。